

Q&A マイナンバーカードの普及率向上を！！



野本 利明 議員

TOSHIAKI NOMOTO



平成28年1月からマイナンバーカードの交付が始まり、4年が過ぎ、令和2年5月1日時点の本市の交付枚数率(15.2%)は、全国(16.4%)、兵庫県(19.2%)よりも低く推移している。今回のコロナ禍でのコロナ対策特別定額給付金においてもオンライン申請で混乱があり、マイナンバーカードの不備が露呈した。そこで、現況、今後について以下の点を問う。

問 現況をどう捉えているのか。また、今後普及率を上げる考えと目標はあるのか。

答 現在、交付枚数率については、県内41市町中29位であり、今後の交付枚数率の目標については、国が令和4年度中に、ほとんどの住民がマイナンバーカードを保有することとしており、本市においても昨年10月に交付

円滑化計画を策定し、令和2年度末に47.6%、令和3年度末に73.6%、令和4年度末に98.3%の交付目標をたてている。目標達成に向け、市広報、ホームページへの掲載のほか、イベント時のチラシ配布、さらには企業団体への出張申請などを行い、普及強化に努めていく。

ポイント付与の導入について

問 市内の企業や店舗での買い物でポイントを付与してはどうか。

答 マイナンバーカード普及に向けた活用方法の一つと考えるが、現段階で不明な点が多いことから、技術的な点や制度面、また、市の財政負担と地域経済活性化の効果等を含め調査研究していく。

その他の質問事項

● 新型コロナウイルス感染防止と災害時の避難について



Q&A 新宮地域のまちづくりについて問う



高岸 博之 議員

HIROYUKI TAKAGISHI



たつの市都市計画マスタープランが今年度10年ぶりに改定される。都市計画マスタープランは、県や近隣自治体、市民、市内事業所に対し、個別のまちづくりを進める場合の説明や理解を得るための指針となるものである。また、市が計画実施する事業はマスタープランに即することが義務付けられている。以下、新宮地域のまちづくりについて問う。

JR播磨新宮駅周辺の市街地の整備について

問 現在、国土交通省と市で進められている栗栖川改修に合わせ、新宮高校跡地に、全県下各地から通う龍野北高生の宿舍等の建設を県へ要望し、さらに市民が憩える広場・公園づくりを北高生と共に進めてはどうか。

答 県に協議を図りたい。マスタープラン改定版は、

揖龍南北幹線大鳥踏切以北区間等の整備計画等を踏まえ、新宮地域JR播磨新宮駅周辺市街地整備の方向性について、市民と関係者へアクションを起こし、具体性を示すべきではないか、市の考えを聞く。

答 現在、市と県において整備における協議を進めているところであり、今後道路事業の協議が進む中で、地元の意向を踏まえ検討していく。

香山家氏地区の土地利用について

問 たつの市土地利用計画から、当地域に市内の企業の特産を活かし、農産物の生産、加工、流通といった6次産業化の拠点を作り、食文化など地域全体のブランド化、雇用の確保、地域活性化を目指し、まちづくりを進めていくことも重要ではないかと考えるがどうか。

答 当該地区においては、周辺農地を活用した農業関連施設を誘導すべきと、現在見直し中のマスタープランにおいて、位置づけを予定している。